

タカラバイオ株式会社 2022年3月期第1四半期決算(補足資料)

1. 2022年3月期第1四半期決算について **【決算短信 10 ページ】**

(売上高)

- ・ 売上高は、152億7,200万円となり、前期比83億3,300万円(120.1%)の増収となりました。
- ・ 「試薬」は、128億7,300万円となり、前期比73億5,800万円(133.4%)の増収となりました。一般研究用試薬の売上がコロナ禍以前(2020年3月期)の水準まで回復したことに加え、新型コロナウイルスのPCR検査関連製品の需要が引き続き高く、大幅な増収となりました。
- ・ 「受託」は、19億5,500万円となり、前期比8億1,700万円(71.9%)の増収となりました。再生医療等製品関連受託、遺伝子解析・検査受託がともに増加し、ワクチン関連受託も加わりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は131億3,800万円となり、前期比84億3,400万円(179.3%)の増益となりました。
- ・ 増収および売上構成の変化や受託事業などの生産稼働率の向上による原価率低減の影響により、大幅な増益となりました。

(販売費及び一般管理費)

- ・ 販売費及び一般管理費は、46億3,300万円となり、前期比6億2,400万円(15.6%)の増加となりました。研究開発費、人件費などが増加しました。
- ・ 研究開発費は、12億9,400万円、前期比1億2,200万円(10.4%)増加しました。新規遺伝子治療プロジェクトや、試薬の新製品や受託の新サービス開発などに投資しました。

(営業利益)

- ・ 営業利益は、85億400万円、前期比78億1,000万円(1,125.5%)の増益となり、過去最高となりました。

2. 2022年3月期上期および通期業績予想の修正について **【決算短信 11-12 ページ】**

- ・ 直近の業績の動向を踏まえ、2021年5月13日に公表した業績予想を修正しました。
- ・ 修正にあたっては、新型コロナウイルスの業績影響は、今後も、一定期間継続することを前提として業績を予想しています。今後、さらに業績予想修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

## (1) 上期予想

### (売上高)

- ・ 売上高は、297億円と、前回予想(5月13日公表、以下同様)比プラス50億9,000万円(20.7%)の上方修正となります。
- ・ 「試薬」は、240億5,800万円と、前回予想比プラス49億3,000万円(25.8%)の予想です。一般研究用試薬は、コロナ禍以前(2020年3月期)の売上水準に回復するとともに、引き続き、新型コロナウイルスPCR検査関連製品の需要は高い水準となる見込みです。
- ・ 「受託」は、47億2,700万円と、前回予想比プラス6億9,300万円(17.2%)の予想です。遺伝子解析・遺伝子検査関連受託などが増加する見込みです。
- ・ 「遺伝子医療」は、1億2,300万円と、前回予想比マイナス4億8,700万円(▲79.7%)の予想です。製薬企業に導出したプロジェクトの進捗が遅延する見込みです。

### (営業利益)

- ・ 営業利益は、114億円と前回予想比プラス42億6,000万円(59.7%)の予想です。

## (2) 通期予想

### (売上高)

- ・ 売上高は542億円と、前回予想比プラス37億円(7.3%)の予想です。
- ・ 「試薬」は、405億9,400万円と、前回予想比プラス37億9,300円(10.3%)の予想です。一般研究用試薬に加え、新型コロナウイルスPCR検査関連製品も前期実績を上回る見込みです。一般研究用試薬はコロナ禍以前(2020年3月期)の実績を上回る見込みです。
- ・ 「受託」は、113億4,600万円と、前回予想比プラス7億6,100万円(7.2%)の予想です。遺伝子解析・遺伝子検査関連受託などが増加する見込みです。
- ・ 「遺伝子医療」は、7億1,600万円と前回予想比マイナス6億7,600万円(▲48.6%)の予想です。製薬企業に導出したプロジェクトの進捗が遅延する見込みです。

### (営業利益)

- ・ 営業利益は170億円と、前回予想比プラス30億円(21.4%)の予想です。
- ・ 営業利益は、過去最高となり、13期連続の増益となる見込みです。

### (期末配当)

- ・ 期末配当予想を、前期の1株あたり16.00円から4.00円増配の20.00円に修正しました。

### 3. 新型コロナウイルス関連事業の状況について

- ・ 国内では、医療機関、検査機関向けに PCR 検査キットを販売しています。また、分子疫学的調査では変異株の遺伝変異検出用の研究用試薬や全ゲノムシーケンス受託など、ニーズに応じた製品・サービスを迅速に開発し、安定供給に努めています。また、海外では検査薬企業や検査ラボ向けに PCR 酵素のバルク供給や OEM 製品の供給を積極的に行っています。
- ・ 2022年3月期第1四半期のPCR検査関連試薬の売上は約70億円となりました。上期では約110億円、通期では約150億円の売上見込みです。
- ・ 新型コロナウイルスワクチン関連では、大阪大学、アンジェス株式会社らのグループが進めるプロジェクトに加えて、複数のプロジェクトを受託しています\*。これらプロジェクトの売上は「受託」に区分して公表しています。

※プロジェクトについては非公表としています。

### 4. 東証新市場選択について

- ・ 2021年7月9日に、東京証券取引所より「プライム市場」の上場維持基準に適合する旨の通知を受領しました。今後、慎重に検討を行い、東証が定めるスケジュールに従い新市場区分選択の手続きを進める予定です。

### 5. 日本・米国における設備投資の状況について

すでに公表していますように、製造拠点の整備を日本・米国で進めています。

#### (日本)

- ・ 滋賀県草津市のタカラバイオ(本社事業所)では、体外診断用医薬品や試薬キットの重要コンポーネントの製造体制の整備を今秋の稼働を目指して進めており、まもなく完成予定です。
- ・ ワクチンを含むウイルスベクター等の再生医療等製品の製造体制の整備を進めており、こちらも、今秋に完成予定です。

#### (米国)

- ・ 米国子会社の Takara Bio USA Inc.では、カリフォルニア州サンノゼ市の新拠点への移転整備が進んでおり、9月ごろに本格稼働予定です。
- ・ 本拠点では、米国内の PCR 関連製品の需要に柔軟かつ機動的に対応するために、製造設備を整備するほか、研究開発施設の整備も行います。

## 6. NY-ES0-1・siTCR®(開発コード:TBI-1301)の製造販売承認申請について

- ・ 2021年3月期決算発表時点(2021年5月13日)の公表内容に変更はありません。

### ※前回公表内容

- ・ 導出プロジェクトであるTBI-1301の滑膜肉腫を適応症とする国内製造販売承認申請については、国内導出先の大塚製薬(株)から2021年中に申請予定であると同社からアナウンスされています。
- ・ 当社では、治験製品製造や上市後の製品製造・供給体制の整備を進めています。

以上